

公益社団法人 地盤工学会  
**地盤調査規格・基準委員会**  
 平成22年度第4回 議事録

日 時	平成23年 2月23日 (水) 13:00 ~ 17:00			場 所	地盤工学会 会議室			
委員長	谷 和夫		幹事(岩)	長田 昌彦	○	幹事(土)	利藤 房男	
委員	浅古 勝久	○	WG1委員	松島 潤	×	WG1委員	斉藤 秀樹	○
WG2委員	木村 英雄	○	WG2委員	水谷 崇亮	○	WG3委員	井尻 裕二	○
WG3委員	小松 満	○	WG4委員	平林 弘	○	WG5委員	小早川 博亮	○
WG5委員	山本 裕司	○	WG6委員	中村 洋丈	○	WG7委員	浅井 健一	○
WG7委員	藤崎 勝利	○	WG8委員	日比 義彦	○	WG8委員	藤根 拓	○
WG10委員	太田 英将	○						

: 出席                    : 代理出席            × : 欠席                    : 未定

**配布資料**

委員会名	資料	資料の有無・番号
地盤調査規格・基準委員会	・ 前回議事録 (H22-12-8)	・ 資料22-4-1 (1) ~ (3)
ワーキング1~10	・ 改訂基準	・ 資料22-4-2 WG1 ~ WG10
ワーキング4	・ 動的コーン設立趣意書	・ 資料22-4-3
基準部会	・ 部員の公募結果	・ 資料22-4-4
基準部会	平成22年度第5回基準部会報告	・ 資料22-4-5 (1) ~ (2)
解説の表記方法 (最新版)	・ 解説執筆要領 ・ 解説執筆サンプル	・ 資料22-4-6 (1) ~ (2)

**審議事項**

(1) 前回議事録確認 (資料22-4-1 (1) ~ (2))

・ 議事録は、特に意見なし。

・ 資料22-4-1(2) に関しては、JIS規格票と照らしても異論がある。**JIS規格票を資料とし、基準部会で再審議事項とする。**

(2) ワーキング1~10 改訂基準 (資料22-4-2 WG1 ~ WG10)

WG10

・ **10章のタイトルは、【地盤環境調査】で決定。** WG8のタイトルを変更する。

WG9

・ 維持管理の資料調査、WG10と調整する。

WG8

・ 図中の文字化けが多いのでチェックする。

・ **新旧対照表は、WG8のものが分かりやすい 各WGで参考にする。**

・ 引用規格・基準の記載を全体的にチェックする (ルールどおりとする)。

・ 文章のフォーマットを全体に再チェックする。

・ 英文は文頭と固有名詞以外は、最初の文字を小文字に統一する。

・ 資料22-4-2WG8(1)、2p及び3p、JGSの記載の仕方をルールどおりに修正する。

・ 資料22-4-2WG8(6)、4章の書式を3章と合わせる。4章1行、「・・・次による」「・・・2種類とする」。7章注記、「・・・

- 写真も添付する」「・・・写真などを添付することが望ましい」。図A.1、枠不要、説明文に番号不要。A.2、左右の図に違いを説明する、部分の名称を可能な範囲で記載する（オーガー、ハンドル等）。
- 資料22-4-2WG8(14)、1.適用範囲の注記、「本基準の方法は、・・・」「この基準は、・・・」

#### WG7

- 新旧対照表は、技術的なものに絞り簡潔にする。
- 数式の文字の大きさは、本文の文字の大きさと同じとする。
- 資料22-4-2WG7(2)、2.引用規格3行、「」不要。4.5、JISを満たす旨記載する。
- 資料22-4-2WG7(7)、「L」等の文字、斜体とする。
- 資料22-4-2WG7(8)、「基準点」、表現方法、記載する場所等、検討する。

#### WG6

- JGS1611及び1612、日本文タイトルを下記に変更することを承認。下記変更に伴う修正点があれば、修正する。  
「突き砂による土の密度試験法」「突き砂法による土の密度試験法」  
「水置換による土の密度試験方法」「水置換法による土の密度試験方法」
- 49pの英文修正案を承認。ただし、JIS1214は、「density」を「soil density」に変更する。
- RIは最近実務で使用している方法を考慮して、必要あれば加筆する。
- 数式の書式 式番号が必要な場合は付ける。式の後の「・・・」は必要（全ワーキングで統一）。**
- 32p、下付き文字が斜体になっているので、直体に修正。
- 38p、4.4「コアカッターの大きさ」「コアカッターの質量」
- 42p、英文タイトル「nuclear」、適用範囲「radioisotope」、英文タイトルが正しいか確認する。

#### WG5

- 写真、供試体の形状を実務でどう実施しているのか確認する。
- 英文タイトル、文頭、固有名詞以外は小文字に修正する。
- 3.語尾の表現「～いう。」を体言止とする。

#### WG4

- 資料22-4-2 WG4(1)、(2)の資料の適用範囲は書きすぎなので、他の基準と整合する範囲にとどめる。
- 同上、4.6.2、「間隙水圧 $u_1$ の位置」「間隙水圧 $u_1$ の測定位置」、に変更する。
- CPT、ベーンは、ISO規格が近々出来る予定である。原則、ISOに合わせしていく事としたが、現状の国内事情等を考慮して、適用分類に関する部分は整合を図っていない。  
CPT・・・温度測定、傾斜角は規定しない。  
ベーン・・・ISO規格案と整合をとり、最大トルク到達時間が2～4分になるように、一定速度で回転させる。
- 報告事項の、地盤高、地盤標高などは、【地盤高】で統一する（全ワーキングで統一）。**

#### WG3

- ルジオン試験の $L_u$ のフォントは、 $E_c$ を確認する。
- 注記に、「・・・すること。」と言う表現が残っている。この表現なら本文に、注記で残すなら、「・・・するのが望ましい」等に変更する。
- 資料22-4-2 WG3(3)、基準化検討ワーキング2件（不飽和原位置透水、流向流速）、リーダー名を記載し、設立理由を肉付けする。 修正後、基準部会審議事項とする

#### WG2

- 資料22-4-2 WG2(1)、8pの注記2行目、土質工学会基準の番号を付ける。
- 適用範囲の注記、「・・・品質を保証しない」「・・・品質を保証するものではない」との意見があるので再度検討する。
- 資料22-4-2 WG2(11)、英文タイトル、「・・・using by」「・・・by」に修正する。

#### WG1

- 資料22-4-2 WG1(1)、「孔内起振受振方式」は、通常よく使用されている「サスペンション方式」でいいのではという

意見があるので、検討する。

- ・資料22-4-2 WG1(2)、適用範囲の3行目、「マイクロ検層と自然電位検層」「マイクロ検層及び自然電位検層」に修正する。
- ・同上、4.1、a)、単位「mm」、「m」が混在しているので統一する。

**ワーキング1~4、6~8に関してはほぼ基準が出来つつあるので、本委員会での指摘事項を修正し、3/14基準部会にあげる。原稿は、最初に新旧対照表を、その後に基準本文を付けたファイルとし、ワード版、pdf版を3/9までに幹事宛送付する。**

(3) 動的コーン ワーキング設立趣意に関して(資料22-4-3)

- ・検討ワーキングは、組織の部分をリーダー名だけに修正 **修正後、基準部会審議事項とする**

(4) 基準部会 部員公募に関して(資料22-4-4)

- ・ワーキング4に関しては、スウェーデン式サウンディング担当を既に1名推薦を得ていることより、委員として追加することは困難。谷委員長から基準部会表記法委員会のほうに諮り、表記法で追加可能との連絡有り。**基準部会で表記法委員会に推薦する予定。**

## **報告事項**

(1) 基準部会報告(資料22-4-5 (1)~(2))

- ・特に、意見なし。

(2) 解説執筆要領・サンプル(資料22-4-6(1)~(2))

- ・資料22-4-6(1)2p、文章ソフトは指定無しとの記載があるが、**ワード指定とする。**